



宇連ダム



大島ダム



牟呂松原頭首工



大野頭首工



西部幹線水路



東部幹線水路



万場調整池



初立池

豊川用水通水50周年



TOYOGAWA



豊川用水は、昭和43年より50年間にわたり
休むことなく水を送り続け、東三河地域及び
静岡県湖西市の発展を支えています。

通水前の生活

大きな河川を持たない東三河地域及び静岡県湖西市は、水不足により農業や日々の生活に苦労していました。



農業用水をため池から桶で運搬



田植え
(写真提供: 渥美町(田原市) 清田 治氏)



渥美町で田に水をくみ上げていた風車
(写真提供: 渥美町(田原市) 清田 治氏)



生活用水は雨水を貯めて利用



掘り井戸の水で洗濯

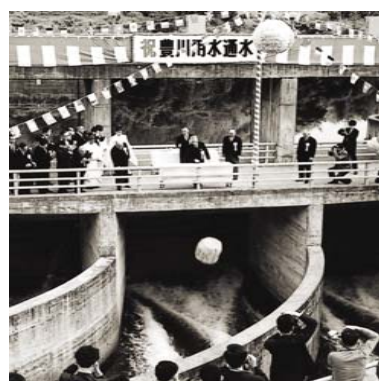
昭和43年 豊川用水通水開始

1927年(昭和2年)、現在の田原市出身の近藤寿市郎氏(愛知県議会議員、衆議院議員、豊橋市長を歴任)によって、インドネシアの農業水利事業をヒントに豊川用水が構想されました。

その後、昭和24年に豊川用水の建設工事がスタートし、多くの人々の苦勞と長い年月を経て昭和43年(1968年)6月、人々が待ち望んだ豊川用水が通水を開始しました。



近藤寿市郎氏

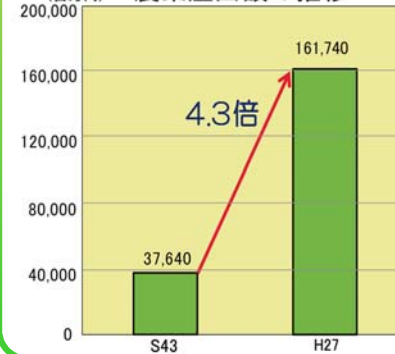


大野頭首工でおこなわれた通水式
(写真提供: 豊橋市 戸田 靖人氏)

農業用水

豊川用水通水後の東三河地域の農業は、施設園芸を中心に飛躍的な発展を遂げ、全国有数の農業産地となっています。

農業産出額の推移



主要品目の農業産出額全国順位

| 品目 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 | 9位 | 10位 |
|--------|-------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|
| キャベツ | 嬉志村 | 深谷市 | 八代市 | 豊橋市 | 鈴鹿市 | 指宿市 | 浜松市 | 田原市 | 田原市 | |
| ブロッコリー | 鈴子市 | 田原市 | 玉名市 | 豊川市 | 袋井市 | 印南町 | 有田川町 | 八女市 | 豊川市 | |
| トマト | 田原市 | 大山町 | 田原市 | 大分市 | つがる市 | 豊橋市 | 八幡浜市 | 浜松市 | 寒河江市 | |
| おおば | 豊橋市 | 三豊市 | 豊橋市 | 行方市 | 八代市 | 伊達市 | 海南市 | 豊川市 | 西条市 | |
| メロン | 三浦市 | 豊橋市 | 鈴鹿市 | 田原市 | 磐田市 | みなべ町 | 熊本市 | 坊崎市 | 福岡市 | |
| さやえんどう | 古河市 | 徳島市 | 高山市 | 南国市 | 夕張市 | 日高川町 | 蒲郡市 | うるま市 | 静岡市 | |
| みかん | 横須賀市 | 小諸市 | 平取町 | 御津町 | 田原市 | 田原市 | 有田市 | 今帰仁市 | 豊橋市 | |
| きく | 岩手町 | 東川町 | 旭市 | 宮崎市 | 共和町 | 御坊市 | 唐津市 | 和泊市 | 銚田市 | |
| ばら | 南あわじ市 | 本庄市 | 都農町 | 鈴鹿市 | 熊本市 | 阿久根市 | 宇和島市 | 伊江村 | 島田市 | |
| | 横浜市 | 音更町 | 宇城市 | 唐津市 | 宇城市 | 尾道市 | 静岡市 | 糸満市 | 九重町 | |

15 豊川市

出典: 生産農業所得統計(平成18年) ※主要品目の農業産出額全国順位は平成18年をもって終了
注) 豊川市は、H18年2月1日市町村合併(豊川市、一宮町)

水道用水

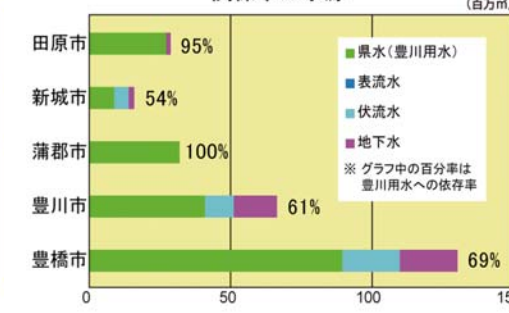
水道用水の安定供給がなされるようになり、蒲郡市では水道用水の100%を豊川用水で賄っています。

- 給水人口 : 約73万人 (H26年度)
- 約73万人の水道の約7割を供給 (地域のライフライン)

県水道供給人口の推移



関係市の水源

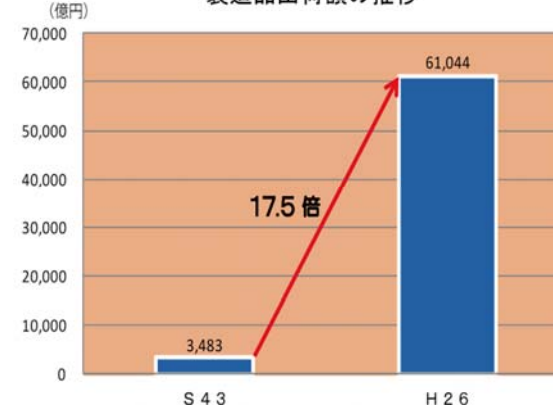


工業用水

豊川用水の水が豊富に使用できるようになったことで、東三河地域及び湖西市に工場が進出し、工業団地が整備されました。

- 製造品出荷額(H26年度)
- 全国 約305兆円
- 豊川水系 約6.1兆円
- 愛知県 約44兆円 (47都道府県中第1位)
- 静岡県 約16兆円 (47都道府県中第4位)

製造品出荷額の推移



(写真提供: トヨタ自動車(株)田原工場)



(写真提供: 東京製鐵(株)田原工場)

豊川用水施設のご案内



豊川用水は、奥三河の山々で降った雨を宇連ダムと大島ダムで貯め、頭首工で取り入れ、水路によって愛知県の東三河地域や静岡県湖西市へ水を送っています。

限りある水を有効に使うために、ダムや頭首工、調整池、幹線水路、支線水路、畑地かんがいの揚水機場などたくさんの種類の施設を通じて水を届け、宇連ダムの水は、およそ一日かけ、約100km下流の渥美半島の先端まで届けられます。

昭和43年の通水からおよそ50年、豊川用水は東三河及び湖西地域を潤し、人々の生活を支えるなくてはならない重要な施設です。

豊川用水では、通水50周年を機に豊川用水の恩恵について多くの方に知っていただくため、今後、通水50周年記念事業として各種イベントを実施していきます。

皆さんも、こうしたイベントや豊川用水周辺施設へ出かけ、水のことや歴史について学んでみませんか？



水の恵みを活かす
独立行政法人 水資源機構
豊川用水総合事業部

〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町8番地 電話(0532)54-6501 FAX(0532)54-6517

URL : <http://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/>



豊川用水通水50周年

